

北大コアファシリティ構想

実施機関：北海道大学・海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
 協力機関：高エネルギー加速器研究機構 (KEK)・国立情報学研究所 (NII)・株式会社 日立ハイテク
 北海道札幌開成高等学校



これまでの取組と課題

先端研究機器の共用化

- H17～機器共用開始、H27～グローバルファシリティセンター (GFC) 設立
登録先端機器 222 台 (16 部局), 12 万 h/年
受託分析 6000 件/年, 総収入 4,300 万/年
- 成型加工技術の開放 (試作ソリューション)
- 中古機器の学内流通 (設備市場)
- 部局連携：オープンファシリティプラットフォーム (OPPF) の創設
- 文科省「新共用事業」で 6 拠点を高度化

課題

全学的規模に成長した結果、持続的運営に果たす装置管理者、部局、大学執行部それぞれの役割を見直す段階に。**持続的な研究基盤データ収集分析体制の確立**が必需。

研究支援人材の育成

- H18～教育研究支援本部 (H25～技術支援本部) を創設、H30～技術・人員の一元管理
- 全学技術職員が技術支援本部を兼務
- 専門別グルーピング等によるスキルシェア
- 部局を超えた全学支援システムの運用
- 技術職員の主体的活動の支援
- 令和 2 年度 文部科学大臣表彰「研究支援賞」受賞

課題

組織整備が着実に進展。実質的な一元化を加速する段階に。**マネジメント機能・情報共有発信機能の強化**並びに部局横断活動活性化のための**財政基盤の確立**が必須。

5年後の達成目標、達成されたときの姿

持続的な成果の創出と社会還元を支える EBPM 研究基盤強化推進体制の確立



戦略と取組

主な取組事項	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
マネジメント体制構築	体制構築・事業運営	● マネージャー雇用・総合技術支援ステーション・研究基盤高度化委員会発足 シンポジウム・点検評価				自主財源 + 利用料収入
研究基盤 IR 体制構築	研究基盤 IR システム	● 設計	● 導入	● 随時改善		
機器共用機能強化プログラム	学内公募型共用促進	● 暫定導入	● 本格運用	● 利用料投入		経営判断
	リモート OF / 産学装置環	● 調整	● 運用			
	モノづくり支援 / R & T	● 設計	● 運用	● クラウドファンド導入		
研究支援人材育成プログラム	テニユアトラック相当若手技術職員育成	● 調整・求人	● 雇用開始		● 経営判断	
	マネジメント人材育成 他	● 調整	● 運用			
	研究支援情報収集 / 広報	● DB構築・広報 TF 発足	● 運用開始・広報誌発行	● 随時改良		